全国高等学校ビジネスアイディア甲子園

「キャッチリトリ」で連覇

豊橋工業の吉田さん成瀬さん

高等学校ビジネスアイディア甲子園

豊橋市の県立豊橋工業高校電子機械科3年生で同じクラスの吉田純さんと成瀬三志郎さんの2人が、大阪府内で開催された「第15回全国高等学校ビジネスアイディア甲子園（経済産業省など後援）」の最終審査に出場し、見事グランプリを受賞、学校史上初の連覇を成し遂げた。同校のグランプリは通算3度目。

2人はチリトリの先端を改造し、ごみ、ほこりの取りこぼしをなくした「キャッチリトリ」を提案。日常に隠れている問題点を掘り起こし、それを改善する姿勢が高く評価された。

グランプリ受賞について、吉田さんは「発表された時は思わず『やった！』と叫んでしまいました。みんなが思っている不便さを解消するチリトリになりました。多くの人に使ってもらえるよう製品化を目指したいです」、成瀬さんは「夏休みや授業後に実験や試作をしたり、発表の練習をしたりして大変でした」が、その苦労が報われました。グランプリを受賞できてとても満足しています」とコメントを寄せた。

今年は全国の164校8483作品の応募があり、最終審査へ進んだのは同校を含めて6作品。最終審査出場は同校として5年連続、今回は初の連覇が期待されていた。審査は5分のプレゼンテーションで、2人は最終組だったという。

担当の小久保寿也教諭によると、発表では「アイデアを考えて、試作・実験を繰り返し、より良いアイデアに改良していく過程がよく伝わり、内容の深さと説得力に優れていた」などと講評を受けたという。（千葉敬也）



グランプリを受賞し、学校として連覇を達成した（中央2人）吉田さん㊨と成瀬さん（豊橋工業高校提供）

↑東愛知新聞（2016.12.31掲載）

↓朝日新聞（2017.1.7掲載）

アイデアちり取り 高校生栄冠

豊橋工の2人、先端に工夫



豊橋市の県立豊橋工業高校電子機械科3年の成瀬三志郎さんと吉田純さんの考案したちり取り「キャッチリトリ」が、全国高校ビジネスアイディア甲子園でグランプリ、豊橋市の高校生技術アイデア賞作品部門で最優秀賞に選ばれた。先端部分に付けた薄いフィルムをいろんな形状に加工し、最適な形状とした。

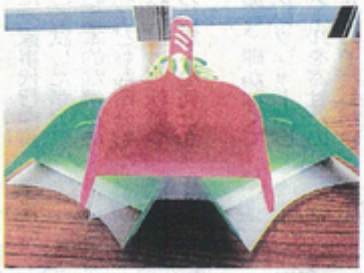
ちり取りで小さなごみが取り切れず、イライラ。誰もが一度は味わう経験が、開発のきっかけだ。

先端部分の厚みを解消するため、薄くして柔らかいフィルムを使い、床との隙間をなくした。最もごみが入りやすい形状として先端部分の中心部を湾曲させたり、ちり取りを持つ角度を24度に保ったりする工夫もした。何度も実験を繰り返し、最適な形状にたどり着いたという。

アイディア甲子園には、全国164校から8483件の応募があった。昨年の12月の最終審査で、6件の代表がプレゼンテーションし、見事、日本一のグランプリに輝いた。

豊橋市役所であった技術アイデア賞の表彰式では、審査員から「残さずごみを取るために角度の研究と材質の選択がしっかりとされていた。身近な場面をとらえた発想から深く踏み込んだ研究が素晴らしい」と評価された。

2人は「掃除での不満を解消するために知恵を絞って、実験を重ねた努力が報われ、大変うれしい」と話した。（松永佳伸）



「キャッチリトリ」は先端部分が湾曲した薄いフィルムになっていて取り残しをなくすことができる

↑朝日新聞（2017.1.7掲載）

※東愛知新聞・朝日新聞の許諾を得て転載しています。